## 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276700172			
法人名	有限会社 旬彩亭			
事業所名	グループホーム旬彩			
所在地	静岡県磐田市今之浦1-1-13			
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果市町村受理日	平成26年12月2日	

#### ※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 //www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action\_kouhyou\_detail\_2013\_022\_kani=true&JigyosyoCd=2276700172-00&PrefCd=22&Version

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

62 な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成26年3月12日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者一人一人の尊厳を守り穏やかで安心した日常生活を営むことができるよう支援いた します。

ご利用者の住み慣れた地域のもう一つの自分の家として過ごせるように共に歩む姿勢で誠意 あるサービスを提供します。

ご利用者の特性に配慮した居心地のいい環境を提供します。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者向け賃貸住宅の建物に、小規模多機能型居宅介護事業所と併設して運営しているグ |ループホームである。管理者は、この施設を「大きな家族」と考え、利用者一人ひとりに寄り添 いながら接し、今何を望んでいるかを把握して、安心・安全に過ごせるよう職員と共に力を合 わせて支援に取り組んでいる。全職員の見守り重視によるケアの実践により、玄関の開錠、 チャイムの撤去を実現させた。また、運営推進会議からの発案により、地域の人たちのために カラオケの開催や住民ボランティア活動の受け入れなどの実現に向けて話を進めており、常 に地域との交流を深めるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します						
	項目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	O 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	O 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	O 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	O 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟	O 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが			_	

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

## [セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	(1)	○理念の共有と実践 ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	理念としている。現在の理念、方針に関して	毎朝の申し送りやミーティングで確認し、研修 や勉強会などを積みかさねて、全職員に周 知を図り、理念に基づいたケアに取り組んで いる。	
2		〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	し当ホームを知っていただいています。散歩	ている。また、住民ボランティアの依頼や地	
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	運営推進会議など当施設での認知症に対する理解や支援方法の仕方を知っていただき、この活動を通して市との連携を図っている。		
4	, ,	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合	の業務ミーティングや「旬彩たより」で利用者 の状況報告や活動を知っていただき、そこ	2ヶ月に1度開催し、行政関係者や自治会長など多方面の関係者の参加を得ている。会議は運営等の報告や情報収集の場として機能しているだけでなく、地域との繋がりにおおいに役立っている。	
5		の実情やケアサービスの取り組みを結構的に伝	運営推進会議に市役所の担当者に参加していただき、顔なじみとなり現在の施設の取り組みを報告したり地域との連携等についてご相談させていただいている。	市への相談や問合せなどは、運営推進会議に参加している担当者に直接連絡しており、適切な対応を受けている。月に1回、介護相談員が来訪し利用者との交流を図ってくれている。	
6	, ,	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる	している。	身体拘束をしないケアを全職員が理解し、見守り重視のケアにより、玄関を開錠し、ドアのチャイムも撤去した。拘束事例もなく、言葉による拘束も職員同士で注意しあい意識向上を図っている。	
7		できふ饭去で行う、利用もの日もで事業が内で  の虐待が目過ごされることがないよう注音を払	すべての職員に虐待について理解してもらい、身体的虐待はもちろん、言葉による虐待・無視・不平等差別等、日常的におこりやすい行為を特に注意している。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	<b></b>
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	り、その時の流れや書類などをまとめて資		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約時には利用者・家族と要望や不安な面について十分な話し合いをし、納得いくまでご説明している。解約に関しては今までご家族側からの要望がほとんどなので、しこりが残らないよう努めている。		
		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	に努め、相談・要望・意見等時間を取って話	毎月ホームの便りを発行して利用者の様子を伝え、面会時には意見や要望が言いやすいように努めている。また、家族が直接ホームへ利用料の支払いに来る仕組みは、話を聞く機会を増やすことに役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている		昨年10月から毎月1回開催される会議に代 表者も参加するようになり、意見交換の場が 広がった。個人面談も予定している。	
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	日常の勤務状況などを密に連絡しあい、理念達成の為お互いが向上するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	各事業の研修は勿論講演会には出来る限り参加するよう働きかけている。また、研修の内容については全体のミーティングの時に発表してもらい、皆で共有するようにしている。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	市の事業所連絡会に参加し、他の施設との 相互の交流を深めている。市内の管理者ど うしの連絡をもち、情報交換などをして運営 に反映している。近隣施設と合同研修を行 いスキルアップにつなげている。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	西
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II .5		:信頼に向けた関係づくりと支援			
15		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者と向かい合う時間を持ち、不安や要望等、納得のいくまで十分話し、どうしても 不明な点はご家族に連絡し、助言を頂き、 再度話し合った事をケアプランに反映してい る。		
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	ご家族には気軽に話していただけるような雰囲気を作り、話を聞く耳をもって接している。立場により内容も変わってくるので一人だけでなく、いろいろな立場の人と話しが出来る機会を作っています。		
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	電話での相談や直接見学に来られた時、今 必要とされる支援をよく聞き説明に努めてい る。その内容に応じて他のサービス・施設な ども紹介している。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として常に教えられることも多く、それぞれ尊敬できる特技・長所を持っている。教えていただいたり、学んだことに関しては感謝の気持ちを素直に表すと同時に今後の介護に活かせるよう努力している。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	月に一度のお便りを通して活動内容や利用 者様の様子を知っていただくと共に、問題が ある場合、ご家族に相談し解決に向けて話 し合いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・親戚が面会に見えられたり、電話が あったときは職員から一言近況をお知らせ している。	家族や友人等が気軽に訪問し、話がしやすい雰囲気を作るよう努めている。昔住んでいた場所までドライブしたり、電話での連絡を取り持つ等つながりを継続できる支援をしている。	
21		〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入居者同士で懐かしい歌や映像を聞いたり 見たりしてささえあう姿が日常的にみられ る。 (食事に行くときの声掛け、就寝時、食器拭 き等)		

自	9 項目		自己評価	外部評価	<b></b>
自己	部	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		〇関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「何かあったらいつでもご相談ください」「近くまで来たらお立ち寄りください」のような声掛けをしている。長期の入院をされている方には、見舞いに行き声を掛けている。		
Ш.					
23	(-)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	自宅で過ごしていた習慣、本人の思いを大切にしている。例えば、朝もう少し寝ていたいという方には休んでいただいている。体調不良を訴える方には本人の希望を考慮に入れ自室でお食事をとってもらうこともある。	利用者との意思疎通を図るために、日常のかかわりの中でゆっくり話したり、一人ひとりに応じたコミュニケーションをとり、本人の言葉に耳を傾けることに努めている。	
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活してこられた生活歴をご家族 様よりお聞きして、なるべく近い状態での サービスを提供するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	各個室にてプライバシーは確保されており、 談話室、事務所は出入り自由でお好みの場 所にいられるように誘導している。		
26		〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	入居者の日常の様子・本人・ご家族の意見を聞き取り、実践するよう努力している。毎日の申し送り、月数回の担当者ミーティングでの意見や情報を月1回の全体ミーティングで報告、介護計画の検討している。	確な情報として明言できるものではないが、	本人がより良く暮らすための課題とケアのありかたについて、新たなチームで利用者・家族の声が反映される書式の整備を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日報・夜勤日報・日誌にて客観的な出来事、主観的な考察を交えて記録しており、職員は誰でも目を通すことが出来るようにしている。また、引継時にはその日のリーダーや職員がその場にいない職員へ連絡ノートに伝言を記入している。		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設自体がマンション形式のため、部屋も広くご家族も入居者と共に宿泊されることがある。ご家族・親戚・友人がみえられたときは、お好みの食事を作って召し上がることも出来る。		

自	外	话 D	自己評価	外部評価	西
自己	外部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			散歩時等地域の方々と接する機会を設けている。また、民生委員の方も運営推進会議に毎回出席してくれており、時々施設にも立ち寄ってくれる。行事のイベント参加でのボランティアの方々が協力し支援してくれている。		
30		〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院と連絡を密にして適切な医療サービスが受けれるようにしてくれている。異常・ 緊急時には協力医院の医師が往診に応じていただいている。(訪問歯科は定期的)	本人や家族の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医となっている。基本は家族 受診だが、柔軟に対応している。受診結果の 報告等必要な情報は家族に速やかに伝えられ、情報の共有ができている。	
31		〇看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	非常勤ではあるが看護師が1名職員として 勤務している。日常の入居者の健康チェック、服薬管理、受診の付添、急変した時は 夜でも休日でも出勤してくれ体調を見てくれる。電話でも相談助言をしてくれる。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	基本的には担当医師、ご家族の判断に任せているが、当方としてはいつ戻られてもいいように準備しその旨をお伝えしている。 見舞いには時間が許す限り職員が出かけ励ましの言葉をかけている。		
33	, ,	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでい る	と常に入居者の体調変化に注意し急変に備		重度化した場合や終末期支援に対する事業所の対応しうる最大のケアの方針を再度明確にし、本人・家族への説明と書面の整備をすることが望まれる。
34		い、実践力を身に付けている	急変・事故に対しては事業所内で勉強会を 行ない、また、マニュアルも作成し職員に渡 している。急変時の延命処置等も事前にご 家族の同意をもらい迅速に対応できるよう にしている。		
35		〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につけると ともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。上階に住んでいる方にも参加していただくよう声を掛けている。職員緊急連絡網にて伝達訓練も行っている。	地域の防災訓練に参加している。また緊急時には施設を地域住民の一時避難所として開放する話し合いがされ、地域との連携を図っている。利用者一人ひとりの病歴・薬等の状況ファイルが整備されている。	夜間想定や地震・津波・風水害についてもマニュアル作成や職員・地域住民等関係者が話し合う場を作ることを期待する。

自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b></b>
己	部	<b>垻 日</b>	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	便・尿失禁をした場合はみんなのいる場所では着替えを行わず、言葉にも注意している。 記録などは入居者の目に付かないように保管に注意している。	一人ひとりのペースを大切にすること、人前であからさまに介護したり本人を傷つけることのないよう、言葉かけや対応に配慮する為の研修を実施し、職員の周知に取り組んでる。	
37			言葉以外にも顔色や態度からも感じ取る努力をしている。にこやかにスキンシップも交えてわかってもらうよう日頃から入居者と接している。 外出や買い物等利用者の「したい」気持ちを尊重するよう心掛けている。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	ー日のスケジュールは決まっているが、決して急かすことの無いようにしている。集団生活の中でも利用者のペースに合わせて、状況が許す限り本人の思いに添って支援している。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	清潔を保つ以外には出来る限り本人の希望通りにしている。マニキュア・化粧等その都度希望があれば手伝うようにしている。 散髪は月に1回、訪問美容に来ていただいている。		
40	(15)		会話の中でその方の好みを聞き、メニュー に反映するようにしている。食材も季節の 物、施設の菜園で採れた物を利用し話題に しながらお出ししている。また、片付けはそ の方が出来る範囲で一緒に行っている。	三食とも食堂横の厨房にて作られており、利用者の希望するメニューが盛り込まれている。手作りのおやつや誕生会・節分・桃の節句等の行事食など、季節に合わせた献立が提供されている。	
41			水分は正確には測定してないが、湯呑茶碗がほぼ100ccであり一日800~900cc摂取し、脱水には十分注意している。		
42		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	歯磨き、うがいを励行していると共に、毎週 金曜日には訪問歯科にて口腔内のチェック をして頂いている。 入歯は毎食後入れ歯洗浄剤にて洗浄。		

自	項目		自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターンを読み取って適宜誘導するようにし	ターによるパット及びオムツの当て方講習会	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	排泄記録を残しており、職員全員がチェックできる体制にある。繊維質の食品は意識してメニューに取り入れている。散歩やレクリエーション等で体を動かすようにして、排泄を促している。		
45		〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一応予定があるが、希望があればその方の都合に合わせて入浴していただける。入浴前にバイタルチェックを行いその日の体調によっては本人納得のうえ中止にする場合もある。	基本は週2回の入浴日としているが、希望があれば入浴回数や時間帯など柔軟に対応している。利用者一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて、同性介助や職員のローテーション・二人介助等の各々に添った支援をしている。	
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	心身に無理がない範囲で昼夜逆転にならないよう、昼間は食事・食事の手伝い・ゲーム等に参加していただき、寝てばかりにならないよう工夫している。夜間の巡回では不用意に起こしてしまわないように注意している。		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	服薬台帳に薬の効用・副作用・注意点を記入してある。薬を頂いたときは必ず看護師による投薬チェックをしている。薬の袋に入れる紙も、朝・昼・夜・寝る前で色分けして分かりやすくし、誤薬防止に努めている。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の好きな人、野菜作りの上手な人、花作りに興味がある人等その方が張り合いが持てる役割をやっていただいている。また、カラオケの好きな方にはいつでも歌えるよう準備している。		
49		〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	適度な間隔でベンチが設置されているので 毎日のように散歩で利用している。季節ごと	散歩や買い物、外食など戸外に出掛けて気分転換を図っている。個別の外出は家族の協力を得て出掛けられるように支援している。受診後に、希望があれば買い物をしたり、車中にて普段話せない胸の内を吐露できる時にもなっている。	

自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b></b>
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等の可能性があるので極力所持させていない。ご家族との同意の上で自己責任で 所持してもらっている方もいる。		
51		〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという希望があればどうして電話をしたいのか理由を聞き、理由によっては 職員が電話をつなぎ話していただいている。		
52		〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	RC構造なので遮音性に優れ、窓を閉めると外部からの音はほとんど聞こえない。全室南向きであり、隣地との間隔も十分取ってあり、風通し・日当たりも問題なく、より良い環境を作っている。	南側窓からは明るい陽射しが差し込んでいる。小規模多機能利用者と共用のため十分な広さはないがテーブルの配置を工夫し、すっきりさせている。北側のコーナーにセミプライベートゾーンとして利用者が落ち着ける場を設けている。	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	花や菜園等のお世話をする人や、誰でも座れるソファーを設置し入居者同士が談笑したりしている。通路には手すりも設置してあり、歩行訓練をされる人もいる。		
54	(/	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	台所・浴室・トイレ・ベランダがあり、一人一	南向きの明るく広い居室には、利用者がそれ ぞれ馴染みの家具等を持ち込み居心地良く 過ごせる居室となっている。玄関には靴の着 脱が容易にできるスペースや広く使いやすい トイレ、洗面台が設置されている。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	基本的には建物全体が高齢者住宅規格になっており、バリアフリー・緊急呼び出しボタンを完備している。自室の認知が不可能な人にはそれぞれ特徴のある表示を設置し表示の高さも見やすい場所に工夫している。		